

1. バイオサイエンスパークについて

佐藤聡議員 1点目はバイオサイエンスパークに関連して質問いたします。
市では、バイオ関連の研究成果を産業化につなげるための環境整備として、鶴岡北部地区のバイオサイエンスパーク内に賃貸オフィス施設「鶴岡メタボロームキャンパス」を建設してきました。バイオ関連企業や研究所の集積によるバイオクラスター形成を目指す構想の一段階として、メタボロームキャンパスの完成は大きな前進であると考えます。先日の総括質問への答弁で入居企業名の紹介がありましたが、入居する企業、研究機関がどのような事業を展開する予定か、新たに就業する人員数をお聞きします。

次にバイオサイエンスパークの広報強化についてであります。

これまで地方経済は農林水産業を基幹産業とし地場産業の振興と工場誘致、そして公共事業投資によって成長をしてきました。近年、経済のグローバル化と産業構造の変化、公共事業費の減額などにより、地方を取り巻く環境が大きく変わるなか、地方自治体は地域経済活性化の打開策を模索しています。

こうしたなか、鶴岡市では慶応義塾大学との協力関係を構築し、先端生命科学研究所の設置を実現しました。市では、同研究所を核として、研究機関やバイオ産業の集積を進め、更にはバイオ関連工場の立地などにより「バイオクラスター」の形成を目指しています。バイオ研究は医療、環境、食品と応用範囲も広く、国際競争力の面でも将来にわたって優位性を維持していくものと思われ、今後の発展が大いに期待されます。シンクタンクの試算によれば、慶応の研究所の立地による鶴岡市の経済波及効果は平成 15 年度で年間約 25 億円と試算されておりますし、また若年層や優秀な人材の地元定着、交流人口の一層の増加が見込まれています。高度で高付加価値な産業の誘致は、地方経済活性化の有効な方策ですが、単独では効果も限られます。観光においては、世界遺産が核となって多くの観光客を集めることが実証されていますが、企業誘致においても核となる研究機関を持つことの重要性を改めて認識させられます。

先端生命科学研究所を核としたバイオクラスター形成は、まちづくりビジョンの柱のひとつであるわけですが、全般的に広報活動が不足しているのではないかと思います。全体を俯瞰できる HP を設けることにより、バイオクラスター構想を一元的に提示し、先端生命科学研究所の意義、地域への貢献について、市民に一層理解を深めてもらうことが必要だと考えます。当局の見解をお尋ねいたします。

総務部長 それでは、バイオサイエンスパークの御質問についてお答えをさせていただきます。まず初めに、入居状況ですが、少し詳しく御説明をさせていただきますが、この施設につきましては、昨年5月に鶴岡市貸し事業場といたしまして、A棟、貸し

室3室を先行供用いたしまして、慶応義塾大学先端生命科学研究所以から生まれました細胞内の全代謝物質、メタボロームの解析を基盤技術とするヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ株式会社、通称HMT社でございますが、入居いたしております。さらに、今年4月にはB棟、これは貸し室6室を供用開始いたしまして、また6月からは当初計画の建物の整備が全部完了いたしまして、共用棟を含むC棟、これは貸し室20室でございますが、供用開始いたしておりますので、全部で29室となっております。市では、特にメタボロームに関する集積を図る観点から、入居者の募集を進めてまいりましたけれども、現在の入居状況といたしましては、HMT社が8室のほか、4月から入居いたしました独立行政法人理化学研究所の植物科学研究センターが3室、同じく4月から入居いたしましたニシカワ計測株式会社が1室、6月から入居いたしました慶応先端生命科学研究所以のメタボローム研究グループが10室、同じく6月から入居したキリンビール株式会社のフロンティア技術研究所が1室ということで、29室の貸し室のうち23室が入居済みとなっておりますし、全体としては現時点で約50名の入居人員が見込まれておりまして、メタボローム関連の企業でありますとか、研究機関の方々から順調に入居いただいているものと理解をいたしております。

入居者の事業展開のお尋ねもございましたが、まず慶応先端生命科学研究所以では、メタボロームの研究グループが入居いたしまして、これまでの基礎的な研究に加えまして、産業化につながる応用研究を行うという予定でありまして、研究所のバイオリボ棟内に配置されておりましたメタボローム解析関連の装置を1カ所に集約をいたしまして、研究の効率を高め、特に医療分野についてバイオマーカーの探索でありますとか、環境分野について、植物から成分分解性プラスチックを効率よく生産する方法の研究などを行うとお聞きをいたしております。

それから、HMT社でありますが、慶応の研究所のメタボローム解析に関する研究成果を企業化に結びつけていくコーディネーターの役割を担っているものではございますが、ミツカンや味の素といった食品関連企業を初め、三菱ウエルファーマや中外製薬といった製薬関連企業、アジレント・テクノロジーといった分析関連企業などとの共同研究を実施しているところでございます。HMT社としての事業の見込みといたしましては、メタボローム解析の受託、メタボローム解析装置やソフトウェアなどの開発、バイオマーカーと呼ばれる病気診断などの目印になる物質の探索と特定などを業務といたしているものでありまして、将来的にはバイオマーカーを用いた創薬まで展望をされておられるということでございます。

また、理化学研究所におきましては、植物科学研究センターの研究グループが入居いたしまして、植物の実験に頻繁に使われるシロイヌナズナや稲などの植物と薬用資源や農作物などの有用植物についてメタボローム解析をいたしまして、代謝と制御の仕組みを明らかにするというようなことのようにございます。キリンビールのフロンティア技術研究所では、飲み物などに含まれております成分をメタボローム解析いたしまして、製造工程の改善でありますとか、新商品の開発、既存商品の改良などに役立てる研究を行うということでございます。

ニシカワ計測でありますが、メタボローム関連のデータ解析のソフトウェア開発で

ありますとか、慶応の研究所で開発されました独自技術のメタボローム解析装置を初めとする装置の販売操作支援などの研究支援業務を行うということでございます。以上のように、入居しているところは、すべてメタボロームに関する企業や研究機関でありまして、今後の残りの貸し付けにつきましては、メタボロームを中心とする連携集積が図られるような入居をさらに進めてまいりたいと考えております。そして、現在世界最先端で最高水準にあるメタボローム解析技術の集積をさらに伸長、発展をさせまして、産業化に結びつける展開というものを図ってまいりたいということで考えております。

次に広報の強化の御指摘ございましたが、大変大切なことと存じておりますが、慶応先端生命科学研究所につきましても、バイオサイエンスパーク整備の計画も含めてでありますけれども、県と庄内地域の市町村が協力して庄内に新しい大学をつくる取り組みから始まりまして現在に至っているものでございまして、市といたしましては大学づくりの取り組みのころから市の広報で特集号を出すなどいたしまして、周知に努めてまいったところであります。

この特集号などにつきましては、広報にそのまま掲載をいたしてまいったところでありますが、発行日の順番で掲載されるというようなこともありまして、なかなか見つけにくいということもあったかと思えます。現在の市のホームページにおきましては、メタボロームキャンパスが6月に建物を全面供用したということで、トップページの更新情報に見出しといたしまして掲載をいたしておりますけれども、このほかには企画調整課の掲示板に張り出しているという状況がございまして、御指摘のとおり、バイオサイエンスパークでありますとか、慶応先端研究所につきましては、市のホームページに整理をされた形での情報提供がなされておらないということかと存じます。全体を俯瞰できる形でホームページに掲載をしていくということは、御指摘のとおり大変重要なことと認識いたしますので、具体的な整備方法あるいは内容につきまして、市の関係課のほか、当該の事業関係者とも相談をしながら、今後検討をさせていただきたいと存じます。議員御指摘のとおり、この事業につきましては、市の今後の戦略的な事業といたしまして、将来にわたり本市の活力を維持発展させていこうとする重要な事業でございますので、ホームページを有効に活用しながら、市民の皆様によりやすいような情報提供にさらに心がけて努力をしてまいりたいと考えております。

佐藤聡議員　ただいま市民への広報の充実ということで御回答いただきましたけれども、加えて企業や研究機関への広報というのもやはり力を入れていくべきではないかと思えます。メタボロームの世界では鶴岡というのは有名になっていますけれども、バイオクラスターを目指す地域というのはほかにもあるようでございまして、ためしにインターネットで「バイオクラスター」というのを検索してみますと、頭の方に大阪、千葉、北海道、広島というのがずっと出てきまして、やはりそれぞれ力を入れているところはホームページをつくって、しっかりとPRしているということが読み取れます。こういった部分から企業に向けたPR活動ということもぜひ強化していただ

ければと思いますので、その点の御見解をお聞きします。

総務部長 対外的に周知をするということについては、ただいま申し上げましたけれども、今後市のホームページへの具体的な掲載方法でありますとか、内容を検討していく際に、世界の最先端に行くこのメタボロームを初めとする独創的で魅力的なバイオ産業の集積を図ろうとしていることなどを中心といたしまして、お話のとおり、バイオ研究者でありますとか、研究機関、事業者などに対しまして、強力にアピールするような内容となるように、さらにグレードアップも含めまして、検討してまいりたいと考えております。